

多摩市議会議員

岩永ひさか ほうれんそう Report



住みたいまちをあなたとつくる。「違い」を力に変えていく！

Message

子どもや若者がいきいきと夢を語れる社会は、未来への希望、未来をつくるエネルギーがあふれ、「生きる力」がみなぎる活力のある社会だと思っています。

「生きる」ということが大事にされ、そのためにも、一人ひとりが尊重されること。そして、当然のことながら「いのち」が大切にされていくこと。改めて、私たちの暮らしに欠かせない水・土・森・大気存在にも目を向け、未来への安心・安全をつないでいくことに軸足を置きなおす時期にあるとも感じています。

また、20年前、私が議員になった当時より、さらに少子高齢化が進み、人口減少社会の現実も直視しなければならず、市政運営も今まで以上に難しいかじ取りが迫られています。

子育て、医療・介護、生活支援など福祉サービスを充実し、暮らしの安心・安全を確保することが第一ですが、私たちの生活を支える道路や橋、公園、上下水道施設など老朽化した都市基盤や公共施設を将来にわたって、安全に維持していくことも欠かせません。

しかし、財源の拡大が難しい今、何かを始めた、増やしたりすることは、容易なことではなく、否応なしに取捨選択が求められる時代に置かれているのです。私はこうした現実から目を背けることはできないと考えます。

市議会には市政運営の最終決定権が委ねられていると言われます。

なぜなら、税金の使い方、政策の優先順位を徹底的に議論し、最終的に決定する権限が議会にあるからです。税金をどこから優先的に使っていくのか、市民の暮らしを支え、守っていくのか。市民から選ばれた代表が集まり議論する場＝議会です。

だからこそ、フェアな民主主義による「フェアな市政」をつくる必要性が強く求められているのではないのでしょうか。

私は、市民とともに将来の街づくりを考えるために、必要な情報公開を進めることが何よりも重要だと考えます。そして、「これからも住み続けたいまちをつくる」ための環境づくりをさらに前進させたいと考えています。

利害対立を恐れるのではなく、「違い」を力に変えていける話し合いの場づくりをしたい。政党や特定団体の支援を受けず、幅広く、一人ひとりの市民の皆さまとつながり、そして、ともに育てた力を活かす「わたしたちの政治」をつくっていきたいと思います。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023年3月

岩永ひさか



Policy & Style ずっと大切に、貫いてきたこと

◆見捨てない、排除しない支え合いの地域社会をつくっていく

～一人ひとりの生きる権利、生きる力を大切に、多様性が発揮できるわたしたちのまちをつくる。

◆住み心地、くらし心地を守っていく

～「わたしたちの今」だけではなく、生き活きとした「子どもたちの将来」へとしっかりとつなぐ「持続可能性」を確立する。

◆「市民・行政・議会」相互のコミュニケーションを大切にしてい

～市民の参画、市民との対話に必要な不可欠なわかりやすい情報提供とその情報にアクセスしやすい環境づくりを重視し、信頼できる市政をつくる。

Style I

公平公正な姿勢！
市民全体に向けた活動を心がけ、**個人後援会**はつくりません。

Style II

政策づくりが議員の仕事！
議員としての**専門性**を磨き、**市民の自治力の向上をバックアップ**します。

Style III

話し合いが大切！
意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「**第3の道**」を見つける**努力**をします。

政党や特定団体の支援を一切受けず**完全無所属**で活動中

住みたいまちをあなたとつくる。「違い」を力に変えていく！

この4年間でふりかえる。 「2019年・私の政策」を自己点検してみました！

- ◆子どもも参加しての虐待予防・不登校予防に向けた教育プログラムを強化します。
- ◆学校でも家庭でもない不登校対策の居場所づくりを進めます。
- ◆子どもの貧困・格差是正。いじめをなくす環境、すべての子どもに学力を保障できる学校環境をつくりまします。
- ◆地域は子どもの味方。待機児童解消と放課後の居場所づくりを進め、子どもの安心・安全の環境をつくりまします。
- ◆教育・福祉・医療の連携強化。医療的ケアの必要な子どもたち、発達支援の必要な子どもたちをしっかりとサポートできる体制をつくりまします。
- ◆老朽化した学校トイレ環境を順次改善、さらに洋式化を進めます。
- ◆手話言語条例の制定をめざし、コミュニケーションが豊かに広がる地域づくりをすすめます。
- ◆スポーツや文化活動を支援し、「いきがづくり」と「健康づくり」を応援できる環境をつくりまします。
- ◆誰でも食堂、まちかど保健室、認知症カフェ等、みんなで見守りあえる心安らぐ居場所づくりを応援します。
- ◆施設も在宅も大事。老老介護や独り暮らしの高齢者の暮らしを支える訪問型介護・看護の充実をはかりまします。
- ◆公園・緑地や公共施設など市民の財産をすべての市民が有効にいつまでも活用できる仕組みや方法を考えまします。

これまでもずっと、**未来を担う子どもたちを最優先！**を掲げ、政策提案に取り組んできました。**教育・福祉の視点**を大事にしています。

Profile

1977年 兵庫県神戸市生まれ
1989年 北諏訪小学校卒
1992年 桐朋女子中学校卒
1995年 桐朋女子高等学校（普通科）卒
1999年 中央大学法学部政治学科卒
1999年～2002年 中小企業金融公庫（今の日本政策金融公庫）勤務
2006年 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了（公共政策学修士）
2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙初当選
現在6期21年目
諏訪2丁目在住 家族/娘18歳
2002年～2007年 多摩生活者ネットワーク所属
2007年～ 民主党→民進党に所属
2017年12月に離党して以来、政党には所属していません。
「継続は力なり。諦めなければ大丈夫！」がモットー。

☑子ども参加については「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」が2022年に制定されました。具体的な取組みはこれからです。2019年6月、2022年12月 不登校対策について質問。不登校対策を進めるための計画策定、不登校特例校（中学校）の設置、小学生への対応策充実、ゆうかり教室の改革、拡充を提案しています。

☑学校教育では、かねてから一人一台タブレット・PCの活用が課題でしたが、コロナ対策で一気にその環境は整いました。その一方、子どもたちの視力低下をはじめ、健康にも配慮する必要性を指摘、2021年12月には、ビジョントレーニング等の健康教育の推進を提案し、その後、実施されています。

☑保育園の待機児童解消は園の立地場所など需要と供給のミスマッチ解消が課題です。放課後の居場所である児童館については老朽化が進む施設の更新、運営を支える職員の育成など着実に進めるための方針や計画づくりの必要性を2022年6月に提案し、現在、策定に向けて動いています。

☑特別支援教育の充実。2004年の発達障害者支援法の制定以来、取り組んできた課題です。かねてから提案してきた教育センターへの保健師職員の配置、発達支援室との連携、相談体制の一元化など2021年によりやく実現しました。

☑学校トイレは大規模改修時に環境改善を行っています。しかしながら、大規模改修時期がまだ先の学校やコロナ禍で改修工事の時期を遅らすこととなった諏訪小学校でもトイレ改修を実施することができました。

☑2023年度から、念願の「手話言語条例」策定に向けた取り組みが始まります。（2022年4月の阿部市長公約）

☑いきがづくり、健康づくり、コミュニティづくり、居場所づくり…社会教育行政（公民館・図書館）の役割を再認識し、地域支援のため、人材育成をしていくことが必要だと指摘しています。

☑高齢者福祉分野については、十分に提案しきれていません。老後の不安を取り除く訪問型介護・看護の充実も今後の課題です。特に公共交通の充実（ミニバスや乗り合いタクシー等）に関心を寄せています。健幸都市に相応しく、何よりも介護予防に力を入れていくべきです。

☑パルテノン多摩の大規模改修が終わりました。今後、多摩中央公園の改修工事が始まりますが、民間事業者活用でよりよい場づくりが期待されます。そして将来にツケを先送りしないよう市の財政負担軽減のために、今後さらに他都市の好事例を学び、提案していきたい分野です。

☎：042-371-0763 いたずら、迷惑電話が多く、留守番電話専用になっています。折り返しのご連絡先について、お名前、ご用件とともに録音していただけますと助かります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

mail：hisaka_box@yahoo.co.jp



←公式ホームページ